

クルリンと ほしぞらさんぽ 6月号



伊勢原市公式
イメージキャラクター
クルリン

ほしぞらさんぽ、やってみましたか？

なかなか晴れる夜がなくてほしぞらさんぽがやりにくいですね。4月中に雲一つなく晴れた夜はわずかに一晩でした。こんなことはめずらしいことです。6月は梅雨の季節、ますますほしぞらさんぽがやりにくくなります。晴れたら「それっ」と出かけられるように心がけましょうね。

明るい星、暗い星

伊勢原の夜空は明るくて3等星ぐらいまでしか見えませんが、空が暗い場所に出かけると6等星まで見えて、まるで空いっぱいLED電球をはめこんだようで、星空に吸い込まれそうになりますよ。1等星とか、2等星とかのお話をしましょう。2000年以上前のギリシャ・ローマの時代から、学者たちは星を明るさで分類していました。一番明るく輝いている星々を1等星、暗くてやっと肉眼で見えている星を6等星としていたのです。

現代では明るさがデジタルで測定できて比べられますので、星座の明るい星ベガを0等と決めています。6等星よりも2.5倍明るい星を5等星、5等星よりも2.5倍明るい星が4等星……1等星は2等星より2.5倍明るい



いと決めました。ですから1等星は6等星よりもおよそ100倍も明るいということになります。さらに0等星は1等星の2.5倍ですし、0等よりも2.5倍明るい星は-（マイナス）1等としています。

これらの明るさは見かけの明るさで、それぞれの星の本当の明るさではありません。だって、同じ明るさに見える2つの2等星だって、遠くにある星は近くにある星よりも、本当はずっと明るくかがやいているはずでしょう？

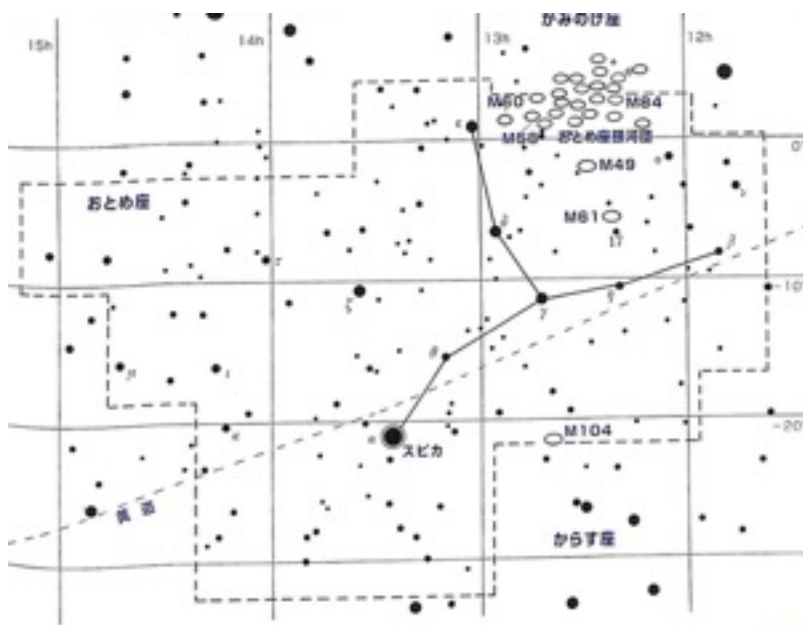
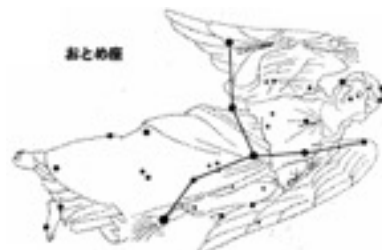
星の地図「星図せいず」を使おう

知らない町に行った時にたよりになるのは地図ですね。ほしぞらさんぽでも星の世界の地図「星図」がないと迷子になってしまいます。

本屋さんで「星図」は売っていませんよ。どこで探そうか、考えてみましょう。……

一番手っ取り早い方法は、学校の図書室の理科の本だんで「星座図鑑」とか「夏の星座」とかの星座に関する本を探ることですね。本の中には必ず星空の地図が星座ごとについていますし、季節ごとの星空の地図がしょうかいされています。子どもでも読める星座の本はたくさん発行されていますので、いくつか比べて一番読みやすい本を借りてきましょう。

今ごろの星空ではおとめ座、うしかい座がよく見えていますが、その星座の図を見ないと、詳しい星々はわかりませんね。上の図のようなものではちょっと満足できませんから、下の図



のようにくわしく星の並びがわかるものを探しましょう。

一番気に入った本を自分のおこづかいで買ったらいいね。何冊も買うよりも1冊をじっくり読み込むほうがいいと思いますよ。

明るさや色のちがい

夜空の星々はみんな同じように光っているのではないことは気がついていきますね。明るさだけでなく色も違いますね。赤っぽい星やオレンジの星、青白い星なんかもあります。今ごろの空には明るい星が少なくて色比べもしにくいのですが、いつも色を気にかけると、夏になればいろんな星の色があることが見られるでしょう。

6月にはうしかい座のアルクトゥルスとおとめ座のスピカで色比べをしてみましょう。家族でそれぞれ色を表現して、だれの表現が一番近いかななんてゲームみたいにしてみるといいかな。

でも伊勢原の明るい夜空では、実は星の色まではなかなか見分けられないでしょうね。そんな時に助けてくれるのが「双眼鏡」です。双眼鏡は、レンズを使って星のかすかな光をいっぱい集めてくれる道具ですから、暗い星でも肉眼で見るとよりずっと明るくはっきりと見えるようにしてくれます。アルクトゥルスとスピカ、二つの星の色が違うことに気づけるでしょう。

改めて双眼鏡を買うのではなくて、ありあわせの小さい双眼鏡でも、肉眼よりかなり明るく見えると思います。

